

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																				
専門学校日本鉄道&スポーツビジネスカレッジ21		平成9年10月1日		吉野 充利		〒130-8565 東京都墨田区錦糸1-2-1 03-3624-5444																				
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																				
学校法人立志舎		平成10年10月30日		塚原 一功		〒130-8565 東京都墨田区錦糸1-2-1 (電話) 03-3624-5403																				
分野	認定課程名		認定学科名			専門士	高度専門士																			
文化・教養	文化教養専門課程		スポーツ学科			平成12年文部科学省告示第15号	-																			
学科の目的	学校教育法に基づき人格の陶冶とスポーツおよびビジネスに関する正しい知識を身につけ日本経済の発展に貢献できる人材の育成を目的とする。																									
認定年月日	平成26年3月 31日																									
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																			
	2年	1720単位時間	920単位時間	1720単位時間	1015単位時間	0単位時間	0単位時間																			
生徒総定員		生徒実員		留学生数(生徒実員の内)		専任教員数		兼任教員数		総教員数																
120		44		0		3		1		4																
学期制度	■前期:4月1日~9月30日 ■後期:10月1日~3月31日				成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 成績評価は秀・優・良・可・不可の5つに分け不可は不合格とします。成績評価は期末試験、授業期間中に実施するテスト、出席などを総合して判断します。																				
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:7月16日~8月31日 ■冬季:12月16日~1月6日 ■学年末:3月16日~3月31日				卒業・進級条件	成績評価において合格した科目の授業時間数の合計が規定の授業時間数に達すること。なお、教育課程に定められた必修科目についてはすべて取得することを要します。																				
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 電話での対応および保護者との面談。保護者等との綿密な連絡体制を図る。				課外活動	■課外活動の種類 総合体育祭、合格祝賀会、スノーボード&スキーツアー、企業説明会、就職出陣式 以下 新型コロナウイルス感染症拡大のため中止 球技大会、硬式野球選手権大会、地域ボランティア等 ■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等																				
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和3年度卒業生) バスケットボールジャパンアカデミー、REZAEV、東武スポーツ、総合体育研究所、フュービック、ソフネットジャパン、スポーツコミュニティ、リラックス、ボードライダーズ、日産、PVHジャパン、ヨドバシカメラ、カインズ など				主な学修成果(資格・検定等)※3	(令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報)																				
	■就職指導内容 ・業界研究 ・業種研究 ・自己分析 ・面接指導 ・新入生就職セミナー ・進路決定のための就職、公務員ガイダンス(中止) ・就職模試 ・校内就職セミナー ・就職出陣式					<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>健康運動実践指導者</td> <td>③</td> <td>28</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>NSCA認定体カドレーンング検定</td> <td>③</td> <td>14</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS) Word</td> <td>③</td> <td>36</td> <td>26</td> </tr> </tbody> </table>						種別	受験者数	合格者数	健康運動実践指導者	③	28	23	NSCA認定体カドレーンング検定	③	14	14	マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS) Word	③	36	26
		種別	受験者数	合格者数																						
	健康運動実践指導者	③	28	23																						
NSCA認定体カドレーンング検定	③	14	14																							
マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS) Word	③	36	26																							
■卒業者数 : 37 人 ■就職希望者数 : 31 人 ■就職者数 : 31 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 83.8 %				※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①~③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																						
■その他 ・進学者数: 3人 ・稼業継承: 1人 ・プロ: 2人 (令和3年度卒業生に関する平成34年5月1日時点の情報)				■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等 男子バレー部 全国専門学校バレーボール大会交流戦 優勝 男子バスケット部 全国専門学校バスケットボール交流大会 ベスト8																						
中途退学の現状	■中途退学者 8 名 令和3年4月1日時点において、在学者64名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者56名(令和4年3月31日卒業者を含む)		■中退率 12.5 %		■中途退学の主な理由 就職決定 学習意欲喪失 進路変更 稼業継承 ■中退防止・中退者支援のための取組 学生相談室の設置、学生との面談、保護者との電話連絡、保護者宛の郵送による出席状況報告など																					
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 <学校独自の奨学金> ・特別奨学生試験制度 ・経済的理由による修学支援奨学制度 <学校独自の特待生制度> ・資格や経歴による特待生制度 ・スポーツ特待生制度 <授業料等減免制度> ・東日本大震災・熊本地震による学費減免制度 <その他の学費支援制度> ・学費延納制度 ■専門実践教育訓練給付:非給付対象																									
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																									

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業・業界団体等との連携により、職務等の遂行に必要な最新の知識・技術・技能の修得のため、企業・業界団体等からの意見を十分にいかし、カリキュラムおよび授業運営に関する改善等の教育課程の編成を定期的に行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

1、教育課程編成委員会を「IT」「会計」「法律」「ビジネス」「動物」それぞれの分野について各校ごとに組織する。教育課程編成委員会は業界関係者、有識者および学園職員で構成する。

2、カリキュラム作成委員会において教育課程を作成する。

3、カリキュラム作成委員会において作成した教育課程を教育課程編成委員会学園全体会および各学校・各学科ごとの分科会において検討を行う。

4、教育課程編成委員会は、カリキュラム改善への意見をカリキュラム作成委員会に提言する。

5、カリキュラム作成委員会は、その意見を組織としてカリキュラムの改善を検討吟味し決定する。

6、カリキュラム作成委員会は、教育課程編成委員会の意見を十分に生かし、カリキュラム改善等の教育課程の作成を定期的に行う。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年2月2日現在

名前	所属	任期	種別
包國 友幸 氏	NPO法人日本ストレッチング協会 講師	令和3年4月1日～令和4年3月31日	①
成瀬 昌由 氏	株式会社RAZAEV 代表取締役	令和3年4月1日～令和4年3月31日	③
吉野 充利	専門学校日本鉄道&スポーツビジネスカレッジ21 校長	令和3年4月1日～令和4年3月31日	
桐原 彰久	専門学校日本鉄道&スポーツビジネスカレッジ21 スポーツ学科 教務部課長	令和3年4月1日～令和4年3月31日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間開催数) 2回

(開催時期) 毎年9月、2月

(開催日時)

第17回 令和3年9月28日(水) 10:00～11:05
(うち学園全体会5分、専門学校日本鉄道&スポーツビジネスカレッジ21 60分)

第18回 令和4年2月2日(水) 10:00～11:00
(うち学園全体会5分、専門学校日本鉄道&スポーツビジネスカレッジ21 55分)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

1. 「機能活性プログラムの実施について」

・委員の意見を取り入れ次年度も120分×4回の授業を実施することを決定した。実習会場が手狭だったため学外施設の確保、または学内の大教室利用等を検討していく。自分だけで行える機能活性運動を授業に盛り込む方向で検討することを決定した。

2. 「パーソナルトレーニング特にボディメイク科目の充実」について

・委員の意見を取り入れ、パーソナルトレーニング、特にボディメイクに特化した食事法についてどのような内容で実施すればよいか検討する。フィジーク大会で実績を残した卒業生に特別授業を実施してもらえるようカリキュラムを検討することを決定した。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

スポーツ関連の多様な企業、団体と連携し、現場で現役として活躍する講師による授業を受講する。連携授業を通して、技術、知識の向上を図るとともに「実際の仕事」「プロの技術」に触れることで学生自身の職業観を確立し、職業選択の一助とすることを目的とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

Bリーグ所属「サンロッカーズ渋谷」との連携授業では担当者による事前講習会を経て、公式戦運営実習を複数回実施。会場設営、警備、物販、ゲーム運営等を担当者指導の下、実践する。日本ストレッチング協会との連携授業では「機能活性ストレッチ」の演習、実習を受講。徒手抵抗による動きづくりなど高度な手技を学ぶ。連携授業においては受講後学内で成果をディスカッションレポートを提出、評価とフィードバックを受ける。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
企業連携演習Ⅰ	加圧トレーニングジムを運営する(株)ジーズニューコンセプト所属トレーナーによる加圧トレーニング指導を受講。	(株)ジーズ・ニューコンセプト
企業連携演習Ⅱ	日本ストレッチング協会講師のもと「機能活性プログラム」の理論を学ぶとともに実習を行い、ストレッチやトレーニングとは異なる人間が持っている能力を活性化させる手技を学ぶ。	特定非営利活動法人 日本ストレッチング協会

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

スポーツ業界においては常に新しいトレーニング方法やトレーニングギアが開発されており、スポーツ用品の販売においても新製品が速いスピードで市場に出回るため、スポーツ学科の教員においても最新の知識を身に付けなければならない。そのため、各企業、団体等の講習会等に教員が定期的に参加する必要がある。なお、授業や学生に対する指導力等の修得・向上のための研修等も定期的に行う。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:「コンプレフロス応用(筋膜リリース)」

期間: 令和4年3月28日(月) 対象: スポーツ学科教員

内容: ① fascia の理解

② Easy-Flossingテクニック(使い方・巻く方向)

③ 実技: 肩 体幹 指 姿勢改善

④ 禁忌の説明

講師: 株式会社サント・ジャパン 梶原 規寛氏

② 指導力の修得・向上のための研修等

・研修名「人権セミナー」

期間: 令和4年2月25日(金) 対象: 鉄道・トラベル学科担当教員

内容: 「職場のハラスメントの基礎を学ぶ ～ 正しい理解が防止の第一歩～」と題し、教育の現場におけるセクシャルハラスメント、パワーハラスメント、アカデミックハラスメントなど、実例を踏まえながら対応策を学んだ。

講師: 東京都人権啓発センター 小原 俊治氏

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「ボディメイクトレーニング」(連携企業等: 現在調整中)

期間: 令和4年12月受講予定 対象: スポーツ学科教員

内容: ボディメイクに特化したトレーニング法および食事管理法についてより深い理解と新たな知見に基づいたメソッドを習得し授業カリキュラムで活用する。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「人権問題研修」(連携企業等: 現在調整中)

期間: 令和4年12月予定 対象: スポーツ学科教員

内容: 「人権問題」に関する講演及びグループ討論を実施予定

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校運営に関し、自己点検・自己評価委員会でまとめた評価および改善計画が適切であるか検証するため学校関係者評価委員会を設置する。学校関係者評価委員会は原則として年1回開催する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・理念、目的、育成人材像は規定されているか。 ・学校における職業教育の特色は何か。 ・理念、目的、育成人材像、特色などが学生、保護者に周知されているか。 ・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか。
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・目的等に沿った運営方針が策定されているか。 ・運営組織や意思決定機能は規則等において明確化されているか、有効に機能しているか。 ・人事、給与に関する制度は整備されているか。 ・教務、財務等の組織整備など意思決定組織は整備されているか。 ・業界や地域社会に対するコンプライアンス体制が整備されているか。 ・教育活動に関する情報公開が適切になされているか。 ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか。
(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。 ・教育理念、育成人材像や業界ニーズを踏まえた教育機関として修業・年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。 ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか。 ・キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。 ・授業評価の実施・評価体制はあるか。 ・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか。 ・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。 ・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか。 ・職員の能力開発のための研修等が行われているか。
(4) 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> ・就職率の向上が図られているか。 ・資格取得率の向上が図られているか。 ・退学率の低減が図られているか。
(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか。 ・学生相談に関する体制は整備されているか。 ・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか。 ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか。 ・課外活動に対する支援体制は整備されているか。 ・学生寮等の学生の生活環境への支援は行われているか。 ・保護者と適切に連携しているか。 ・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか。
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。 ・防災に対する体制は整備されているか。
(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集活動は、適正に行われているか。 ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。 ・学納金は妥当なものとなっているか。
(8) 財務	<ul style="list-style-type: none"> ・中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか。 ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものになっているか。 ・財務について会計監査が適正に行われているか。 ・財務情報公開の体制整備はできているか。

(9) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。 ・個人情報に関し、その保護のために対策がとられているか。 ・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか。 ・自己評価結果を公開しているか。
(10) 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。 ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。 ・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等）の受託等を積極的に実施しているか。
(11) 国際交流	評価していない。

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価結果については以下のように活用した。

- ① 卒業生として本学の特徴であるゼミ学習を通して、いろいろなことを学びましたが、コミュニケーション力はもちろん特にパソコンの授業は今の仕事上、資料の作成が多いので、役に立っていますし、プレゼン力が付いたと思うので継続してほしい。
⇒更に工夫をして継続していく。
- ② 当社でも御校の卒業を採用しており御校独自のゼミ学習で培われたコミュニケーション能力が、仕事に活かされており即戦力として頑張っているのが継続してほしい。
⇒更に工夫をして継続していく。
- ③ 高校生がセミナーなどの申し込みをオンラインで出来る環境はとて素晴らしい。また入学に関する様々な手続きなどが携帯で申し込めるというのは良いと思う。今後さらに進化させて利用しやすくしてほしい。
⇒更に工夫をして継続していく。
- ④ コロナ禍で中々研修等もできない状況の中、それぞれの学科ごとに専攻分野に関して常にレベルアップを考え研修に望み、修得した知識、技術を学生に提供している点は素晴らしいと思います。また、毎年人権研修を行っており、様々なハラメントに関する知識を持って教壇に立っている先生方に親という立場からも安心して子供を預けることが出来ると思います。引き続き継続をしてください。
⇒更に工夫をして継続していく。
- ⑤ 各学科の学修成果については素晴らしいものばかりなので、引き続きがんばってほしい。
⇒今以上に成果を出せるように工夫をしていく。
- ⑥ 経済的支援について独自の支援制度を設けている点において、高校でも部活にしっかり取り組みたくて入学する子もいるので、進学先でもスポーツをしたいという生徒も増えている。実技特待制度があると高校側も進路相談で紹介しやすいのでありがたい制度だと思っておりますので続けてほしい。
⇒更に工夫をして継続していく。
- ⑦ 学校行事、各種研修、実習等が新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止になる中、当社でもインターンシップの受け入れをしていたが、送り出す学校側もコロナ禍で保護者の理解を得にくく、現在は控えている状況です。私どもは強い要望があれば受け入れ態勢は整えているが、職員はリモートワークでいないなどの環境から校数を減らしたりしている。学校として何とか学生に経験を積ませたいという思いから模索して実施している点に先生方の努力が垣間見られるので環境が整い次第協力したい。
⇒両方で検討してより良い方向に進める。
- ⑧ スポーツのトレーニングルームのリニューアルについて、スポーツクラブのようだった。素晴らしい環境が整っている。今後は地域貢献になるので外部に貸し出すことも検討して見てはどうか？
⇒検討する。
- ⑨ コロナ禍でテレワーク等が推奨される中、従来の来校型によるオープンキャンパスには参加しづらい面がありますが、いち早くオンラインによるオープンキャンパスや個別説明会を導入するなど臨機応変な対応は素晴らしい。今後は来校しなくても教室や施設などを見れる「360°バーチャル施設案内」などがあるととっても良いのかもしれない。
⇒検討する。
- ⑩ SNSは見させていただきましたが、動画などで部活やイベントの様子、学生の生活が見れるというのは、高校生にも伝わるし、保護者の説得にもつながるのではないかと。更に進化していただきたい。
⇒更に有益な情報を発信していく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年5月17日現在

名前	所属	任期	種別
青山 文彦 氏	立志舎高等学校 教頭	令和4年4月1日～令和5年3月31日	高校関係者
鶴飼 恭子 氏	株式会社ニチイ学館 お茶の水支店 支店長	令和4年4月1日～令和5年3月31日	業界関係者
田口 浩 氏	株式会社日本旅行 東京教育旅行営業部 部長	令和4年4月1日～令和5年3月31日	業界関係者
平澤 精一 氏	有限会社井荻スポーツ社 代表取締役	令和4年4月1日～令和5年3月31日	業界関係者
藤代 真弘 氏	東海旅客鉄道株式会社 新幹線鉄道事業本部 東京第二運輸所 指導車掌	令和4年4月1日～令和5年3月31日	業界関係者
丸茂 茜 氏	ヒロセ電機株式会社 製作本部長室	令和4年4月1日～令和5年3月31日	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL:<https://www.nihonschool21.ac.jp/>

公表時期: 毎年5月下旬

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の関係者が本学全般について理解を深めるとともに、企業等の関係者との連携および協力の推進に資するため、本学の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供する。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の教育方針、特色(ホームページ) 校長名、所在地、連絡先(ホームページ) 学校の沿革、歴史(ホームページ)
(2)各学科等の教育	設置学科、収容定員(ホームページ) 授業方法(ホームページ) カリキュラム(ホームページ) 目標取得資格、目標合格検定(ホームページ) 資格取得、検定試験合格等の実績(ホームページ) 主な就職先(ホームページ)
(3)教職員	教職員数(ホームページ)
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職支援等の取り組み支援(ホームページ)
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事への取り組み状況(ホームページ) 課外活動(ホームページ)
(6)学生の生活支援	学生相談室・就職相談室の設置(ホームページ)
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金の取り扱い(ホームページ) 活用できる経済的支援措置の内容(ホームページ)
(8)学校の財務	事業の概要、財産目録、資金収支計算書、事業活動収支計算書 貸借対照表(ホームページ)
(9)学校評価	自己点検評価報告書(ホームページ) 学校関係者評価報告書(ホームページ)
(10)国際連携の状況	なし
(11)その他	なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

方法:ホームページ

URL:<https://www.nihonschool21.ac.jp/>

授業科目等の概要

(文化教養専門課程スポーツ学科) 令和4年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			一般教養講座 I	就職試験で実施されるSPIを見据え、各種基礎能力を高めることを目標とする。本講座に置いては非言語分野である一般的な計算（文章題）・図形・空間把握・判断推理、数的処理を学ぶ。	1前	40		○			○		○		
○			一般教養講座 II	就職試験で実施されるSPI試験を見据え、各種基礎能力を高めることを目標とする。非言語分野である順列組合せ、確率、フローチャート、滑車等の一般的な文章問題を通して数的処理を学ぶ。又、併せて言語分野（二語の関係、同意語 反意語 長文読解）及び時事問題を学ぶ。	1後	60		○			○		○		
	○		就職対策講座	就職活動に向けた自己分析を行い、自身の就職観を確立する。また志望する業界、企業の研究を行う。	1後	20			○	○	○		○		
	○		就職ゼミナール	社会人として必要とされる基本的なものの見方や考え方・行動の仕方について理解を深め、礼儀・マナーの修得、面接演習を行う	2前	60			○		○		○		
	○		ビジネス文書	ビジネス文書の基本、社内文書の種類と役割、社外文書の種類と役割、通信事務、表とグラフの活用等について学ぶ。	2前	40		○			○		○		
	○		ビジネスマナー	職場生活でのルールを理解し、職場の人間関係、就業中のマナー、服装と身だしなみ、話し方の基本を学ぶ。	2前	40		○			○		○		
	○		表計算ソフト演習	表計算ソフト「Excel」を使用し入力、修正などの基本的操作から、関数の使い方までを学ぶ。	2後	40			○		○		○		
	○		文書作成ソフト演習	ワープロソフト「Word」を使用し、文字の入力・修正・編集などの基本操作から効果的なビジネス文書の作成技法を学ぶ。	2前	40			○		○		○		
	○		プレゼンテーションソフト演習	パワーポイントを利用してプレゼンテーションの企画、作成、発表までを学ぶ。	2後	40			○		○		○		
○			企業連携演習 I	スポーツ分野の様々な企業や現場で実際に活躍している方の講演や実習を特別授業として受講し、レポートを提出する。	1後	40			○		△	○		○	○

○	スキー・スノーボード実習	5日間の実習を通してスキーおよびスノーボードの技術を身に付け、SAJおよびJSBAの級別テストを取得するとともに、共同生活を通して団体行動を学ぶ。	1後	35					○	○	○	○
○	トレーニング実習Ⅰ	体力測定の結果分析、評価を元にフリーウェイト、各種マシン、自重負荷を用い、正しいレジスタンストレーニング法を学び、実践する。	1前	70					○	○	○	
○	トレーニング実習Ⅱ	体力測定の結果分析、評価を元にフリーウェイト、各種マシン、自重負荷、バランスボール、TRX等を用い、目的に合わせたトレーニング法を学び実践する。	1後	70					○	○	○	
○	企業連携演習Ⅱ	スポーツ関連産業やスポーツイベント運営企業の社員指導の下、現場での仕事を主体的に体験し、レポートを作成、提出する。	2前	40					○	△	○	○
○	卒業研究	専門学校での学習の集大成として、授業科目・就職先の業界研究など学生がテーマを考えて論文を作成する。	2後	160					○	○	○	
○	インターンシップ	各講義、及び実習で習得した知識をフィットネス企業、トレーナー系企業、スポーツ系販売企業、プロ及び社会人スポーツチーム内での就業体験の場で実践することを目標とする。実際の業務を通して業界のしくみや業務内容を学ぶ。	1前	40					○	○	○	
○	運動障害の予防	運動に伴う内科的、整形外科的障害について理解を深める。捻挫、疲労骨折、腰椎分離症、熱中症や月経異常の要因、予防法を理解する。傷病者に対する応急処置の実践を学ぶ。	1後	20					○	○	○	△
○	運動生理学	呼吸循環器、骨格筋、神経と運動との関連の理解を高める。特に筋収縮様式、エネルギー供給に関する分野の理解を重視し、エネルギー代謝の計算法も学ぶ。	1後	20					○	○	○	
○	エアロビック運動の実際Ⅰ	エアロビックダンス一連の動作を実習し、正しいアライメントの習得、心肺持久力、筋持久力向上を目指す。性、年齢、体力差を考慮した安全なプログラムの作成、指導法を学ぶ。	1前	35					○	○	○	
○	エアロビック運動の実際Ⅱ	エアロビックダンスプログラムの作成を行う。またジョギング・ウォーキングにおいては実際に歩行、走行を実習、検証することでそれぞれの特性 効果を理解し、健康づくりのための運動指導に活用できるようにする。	1後	35					○	○	○	
○	エアロビック運動の理論	有酸素性運動をエネルギー供給機構との関係から理解する。最大酸素摂取量、無酸素性作業閾値の推定方法を学ぶ。	1前	20					○	○	○	
○	栄養と体重調節	栄養と健康、スポーツとの関連を理解する。適切な減量を実施するためのエネルギー消費量の計算法を習得する。また、競技選手対象の栄養摂取法、調理法について知識を学ぶ。	1後	20					○	○	○	△

○	エクササイズ テクニック	柔軟性向上、自重負荷、スタビリティボール、レジスタンス（フリーウェイト、マシン）、有酸素性能力向上の各種トレーニング法の正しい知識を学ぶ。	1 前	20				○	○	○				
○	機能的解剖学	骨格筋の分類、構造、特徴と役割を基礎に人間の代表的な関節（肩関節、脊柱、股関節、膝関節、足関節）の構造及び各種運動時、トレーニング時のバイオメカニクスについて学ぶ。	1 前	20			○		○	○				
○	キャンプ実習 I	テントの設営方法・撤収方法、野外料理の方法、ロープワーク、キャンプファイヤーの運営、キャンプ道具の使い方等を学ぶとともに、集団行動でより良い人間関係の構築を学ぶ。	1 前	35					○		○	○		
○	キャンプ理論	キャンプの意義と目的、書式と種類、ルールとマナー、キャンプインストラクターの役割、コミュニケーションスキル、キャンプの安全、安全管理等を学ぶ。	1 前	20			○			○	○			
○	クラブ活動 I	野球、サッカー、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、テニスから一種目選択し、競技力向上に努める。春季・夏季大会を目標に基本的技術、チーム戦術を学ぶ。	1 前	105					○	△	○	○		
○	クラブ活動 II	野球、サッカー、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、テニスの中から一種目選択し、競技力向上に努める。秋季・冬季大会での上位入賞を目標とする。	1 後	105					○	△	○	○		
○	健康管理概論	日本人の疾病傾向の変化、生活習慣病への理解を高める。それを踏まえ運動が健康づくりに果たす役割を認識し、有酸素運動を中心とした運動プログラム作成法を学ぶ。	1 後	20			○			○		○	△	
○	公務員基礎講座 I	公務員試験で出題される「判断推理」「空間把握」「資料解釈」の基本的な問題の解決能力を獲得することを目標とする。就職試験で多くの企業で採用されるSPI問題の理解を進め基礎的な問題を確実に解けるよう講義を進める。	1 前	80			○			○		○		
○	公務員基礎講座 II	公務員試験で出題される「数学分野」の基本的な問題の解決能力を獲得することを目標とする。基礎問題の演習を続けることで公務員試験に対応できる力をつけられるように数学を学ぶ。	1 後	80			○			○		○		
○	小売業の類型	流通における小売業の基本的役割、流通経路別小売業の基本的役割、形態別小売業の役割、店舗別小売業の役割、チェーンストアの役割等を学ぶ。	1 前	20			○			○		○		
○	小売業務演習	流通における小売業の役割、形態別の小売業の役割やチェーンストア等の仕組みについて学ぶ。	1 後	40			○			○		○		
○	水泳・水中運動 I	水による負荷を活かし、水中エアロビクス、補強運動、筋力トレーニングを実習し、その運動強度と効果を理解させる。水泳においてはクロールと背泳の正しい泳法の習得する。	1 前	35					○		○	○		

○	水泳・水中運動Ⅱ	クロール 平泳ぎ 背泳ぎ バタフライの基本4泳法の習得を第一目標とし、正しい泳法の理解と適切な指導法を学習する。	1後	35				○		○	○			
○	ストアオペレーション	店舗運営（ストアオペレーション）の基本的役割を理解し、受発注業務および包装、ワークスケジューリング等の基本的知識を学ぶ。	1前	20			○			○		○		
○	ストレッチングの理論と実際	スタティック、バリスティック、ダイナミックストレッチ及びPNFに代表される徒手抵抗を用いたストレッチ法の意味と効果を理解し、安全性の高い指導法を習得する。	1前	20			○			○		○		
○	スポーツ・コンディショニング実習Ⅰ	スポーツパフォーマンス向上を目的としスピードトレーニングの理論及び技術を習得する。 又、バレーボール、バスケットボールの技術向上のための実習を行う。	1前	35					○	△	○	○		
○	スポーツ・コンディショニング実習Ⅱ	爆発的パワー獲得のためにプライオメトリクスの安全で効果的なトレーニングの実施方法、プログラミング法を学ぶ。あわせて競技スポーツとしてのフットサル、バドミントンの実技を行う。	1後	70					○	△	○	○		
○	スポーツアイシング	コンディショニング、応急処置、リハビリテーションの各分野において活用されているアイシングの理論と実際を講義、演習を通して学ぶ。	1前	20				○			○	○		
○	スポーツテーピングⅠ	テーピング知識と技術を向上させることを目的とする。ホワイトテープ、伸縮テープ、キネシオテープ等を目的別、部位別で適切に選択、処置できるようにする。	1後	20				○			○	○		
○	ダイビングライセンス講座	オープンウォーターダイバーライセンス取得を目指し、潜水の理論と潜水の生理、機材の使用法、圧平衡、海洋環境等を学ぶ	1前	20				○				○	○	
○	トレーナー指導演習Ⅰ	正しいトレーニング理論を基に第三者に対する適切なトレーニングプログラムを作成し、目的別のトレーニング指導が行なえるようにする。	1前	20				○			○	○		
○	トレーナー指導演習Ⅱ	多様なトレーニングプログラムを作成し、競技選手に対し実際に指導を行なう。また、ストレッチや各種テーピング、アイシングの技術を用い選手のコンディショニングが担当できるようにする。	1後	40					○			○	○	
○	パーソナルトレーナー演習Ⅰ	解剖学、生体エネルギー機構、レジスタントトレーニングや有酸素性持久カトレーニングに対する身体の適応、栄養、心理を総合的に学ぶ。	1前	60					○			○	○	
○	パーソナルトレーナー演習Ⅱ	パーソナルトレーナーとしてクライアントの健康評価法や施設の安全管理、法的問題、および特定のクライアントに対するトレーニング指導法を学ぶ。	1後	60					○			○	○	
○	販売・経営管理	販売員の基本業務、法令知識、販売事務に関する事項を学ぶ。	1後	20				○				○	○	

○	プログラムデザイン	レジスタンストレーニング、有酸素性持久力トレーニング、プライオメトリックおよびスピードトレーニングのプログラム作成法を学ぶ。	1後	40				○	○	○				
○	ボートライセンス講座	小型船舶の船長としての海でのマナーやルールを理解し、2級小型船舶操縦士免許の取得のための水上交通の特性、船長の心得、航法等を学ぶ。	1後	20				○		○	○			
○	補強運動の理論	レジスタンストレーニングの分類とその特徴を踏まえ、代表的なレジスタンストレーニングの実施方法、トレーニングプログラム作成の基礎を学ぶ。	1前	20				○		○	○			
○	マーケティング	マーケティング活動における販売情報とその活用、販売促進の原理とその展開について学ぶ。	1後	20				○		○	○			
○	マーチャンダイジング	商品の構成、評価、ブランド、サービスについての基礎的な知識および、販売員と商品知識の関係について学ぶ。	1前	20				○		○	○			
○	運動指導の心理学的基礎	健康行動に影響を与えるさまざまな要因や身体活動・運動実践が心身の健康に与える影響を理解することを目標とする。個別指導における動機づけとカウンセリングの方法を学ぶ。また、競技パフォーマンスと心理的要因の関係を理解しメンタルトレーニングの具体的な手法も学ぶ。	2前	20				○		○	○			
○	官公庁研究Ⅱ	官公庁職員による業務説明会を通して、公務員の仕事の概要等を深く理解することを目標とする。今後希望する公務員像を明確にし公務員試験に向けて考え行動する力を養う。	2前	20				○		○				
○	キャンプ実習Ⅱ	2泊3日のキャンプ実習を通して、野外活動の直接体験の不足部分を体験するとともに集団行動でよりよい人間関係を構築する。	2前	35						○	○	○		
○	クラブ活動Ⅲ	選択した各クラブで競技力向上に努める。又、チームの中心メンバーとしてリーダーの役割を果たせるようにする。春季・夏季大会での上位入賞を目標とする。	2前	105						○	△	○	○	
○	クラブ活動Ⅳ	選択した各クラブで競技力向上に努める。又、チームの中心メンバーとしてリーダーの役割を果たせるようにする。集大成として秋季・冬季大会での上位入賞を目標とする。	2後	70						○	△	○	○	
○	健康運動演習	健康体力作り事業財団認定の健康運動実践指導者の資格取得を目標とし、下記全分野の問題演習を行い、理解を深める。	2後	80						○	○	○		
○	健康づくりと運動プログラム	健康づくりを目的とする運動プログラム処方上の原則を種類、強度、時間、頻度の観点から理解する。特に有酸素運動の重要性を理解し有効な運動プログラムを作成できるようにする。	2前	20						○	○	○		

○	現代国語	日常生活を営む上で必要欠くことのできない合理的思考力と的確な判断力・表現力及び理解力の基本を養うと共に、言語文化への関心を深め、人間性の根幹を養うことを目指す。	2後	80		○		○	○				
○	硬筆書写	楷書・草書の練習を通し、筆順を確認し、ビジネス文書を学習する。硬筆書写検定試験問題の出題傾向を考慮する。	2後	40			○		○	○			
○	時事研究	時事用語の理解に重点をおきながら分析し、理解を深めることを目指す。公務員試験で出題される最新の国内・国外の政治分野、社会・生活、経済、スポーツ、文化等の時事問題について学ぶ。	2前	40			○		○	○			
○	自然科学概論	各種国家公務員試験、地方公務員試験で出題される数学・物理・化学・生物・地学分野の自然科学に関する内容の総合的理解を深めることを目標とする。種々の演習問題を通し多角的に学ぶ。	2前	40			○		○	○			
○	自然科学演習	数学・物理・化学・生物・地学分野の自然科学に関する総合的理解を深めることを目標にする。国家公務員試験・地方公務員試験の出題傾向を考慮し、種々の演習問題を多角的に学ぶ。	2前	40				○	○	○			
○	指導法	受講者の年齢、体力レベル 設定目標に合わせた運動プログラムを作成し、実際に指導を行う。さらに施設の運営管理法やリスクマネジメントに対する理解を深める。	2後	80				○		△	○	○	
○	社会科学概論	法学および政治・経済・現代社会分野の基本概念についての理解を目指し、さらに総合的理解を深めることを目標にする。相互関連性に注目しながら種々の演習問題を多角的に学習する。	2前	40			○		○	○			
○	社会科学演習	法学および政治・経済・現代社会分野について、相互関連性に注目しながら、基本概念についての理解を目指す。さらに総合的理解を深めるために、国家公務員試験・地方公務員試験の出題傾向を考慮し、種々の演習問題を多角的に学習する。	2前	40				○	○	○			
○	就職ゼミナール I	卒業後の進路選択を考える前段階として、日々の学生生活を有意義なものとする意識の高揚を目指す。特に、社会人として必要とされる基本的なものの見方や考え方・行動の仕方について理解を深め、礼儀・マナーの修得、面接演習等を行う。	2前	20				○	○	○			
○	資料分析	統計に関する基本概念である指数・度数・累積度数等の理解を目指す。日常生活に関係の深い社会事情や経済事情等に関する統計資料により判断力・計算能力及び社会・経済の動向の分析力を中心とした資料解釈の領域の基礎を学ぶ。	2前	40				○	○	○			
○	人文科学概論	公務員試験において頻繁に出題される人文科学分野の種々の演習問題を多角的に検討し、古代から近代に渡る日本史及び世界史、四字熟語や慣用句などの国語、地理分野の人文科学に関して総合的に学習する。	2前	40			○		○	○			

○	人文科学演習	日本史、国語、世界史、地理等の人文科学に関する総合的理解を目標とする。国家公務員試験・地方公務員試験の出題傾向を考慮し、理解をより一層深めるために、種々の演習問題を多角的に学ぶ。	2前	40			○	○	○									
○	水泳・水中運動の指導Ⅰ	受講者の年齢、体力レベルに合わせた水泳・水中運動プログラムを作成し、指導を行う。ウォーミングアップ、筋コンディショニング、クロール、背泳の適切な指導法を学習する。	2前	20			○		○	○								
○	水泳・水中運動の指導Ⅱ	受講者の年齢、体力レベルに合わせた水泳・水中運動プログラムを作成し、指導を行う。水中ウォーキング、水中レジスタンス運動、水泳はバタフライ、平泳ぎの指導法を学習する。	2後	20			○			○	○							
○	数的推理	公務員試験において出題される数による推理力・判断力や処理能力及び数学的な計算力を中心とした数的推理の領域の基礎力を養うことを目標とする。種々の演習問題を多角的に学ぶ。	2前	80			○		○		○							
○	数的推理演習	公務員試験において出題される数による数による推理力・判断力や処理能力及び数学的な計算力を中心とした数的推理の領域の基礎力をより一層深いものにすることを目標とする。そのために国家公務員試験・地方公務員試験の出題傾向を考慮し、種々の演習問題を多角的に学ぶ。	2前	40			○		○		○							
○	スポーツ・コンディショニング実習Ⅲ	ウォーミングアップ、クーリングダウン、プライオメトリックトレーニング、スピードトレーニングの適切なプログラムを組み、実際に指導できるようになることを目標とする。また、競技スポーツとしてソフトボール、卓球の実習を行い、技術向上法を学ぶ。	2前	70					○	△	○	○						
○	スポーツテーピングⅡ	キネシオロジーテープの特徴である接着、被覆、伸縮を理解し、目的別、部位別、症状別のキネシオロジーテーピング法を学ぶ。	2前	20			○		○		○							
○	スポーツマッサージ	スポーツマッサージ技術の習得を目的とする。怪我の予防、疲労回復、競技力向上等を目的とした各種マッサージ技術の演習を行うと共に生理学的理論も身に付ける。	2後	20			○		○		○							
○	体力測定と評価	新体力テストに準じ正しく身体能力の測定、評価できるようにする。体組成の測定を皮下脂肪厚計、BIA法等、機器を用いて行えるようにする。	2前	20			○				○		○					
○	適性演習Ⅰ	事務処理能力の基本である文書作成・集計・照合・転記・分類・整理といった各作業を、速くかつ正確に行うことを目標とする。計算・分類・照合・置き換え・図形把握等の形式を中心として、基礎的な問題についてスパイラル方式による演習を行う。	2前	20			○		○		○							

○	○	○	トレーナー指導演習Ⅲ	ピリオダイゼーションの理論をもとに自らが担当する競技選手に対する年間のトレーニング計画を立案し指導、検証を行えるようになることを目標とする。新人学生トレーナーに対する指導を併せて行うことで自らの知識、技術のレベルアップ法を学ぶ。	2前	40				○	○	○							
○	○	○	トレーナー指導演習Ⅳ	担当してきた選手の身体的成長を客観的に評価し、実施してきたトレーニングプログラムの成果を分析、次年度以降のトレーニング計画に活用できるようにすること、後進の学生トレーナーを育成することを目標とする。トレーニングの評価分析法、データの集計方法等を学ぶ。	2後	20				○	○	○							
○	○	○	トレーニング演習Ⅰ	公務員試験の体力試験対策として筋力向上を目標に、正しい器具の使用法・効果的なエクササイズ法を学び、実践する。	2前	40				○	○	○							
○	○	○	トレーニング実習Ⅲ	継続してきた体力測定の結果分析、評価を元に各種トレーニング機器を用い、健康づくりから競技力向上まで目的に合わせたパーソナルトレーニングプログラム作成法を確立することを目標とする。さらに第三者に対するカウンセリング、トレーニングプログラムの提供までを実体験することで指導者としての高い自覚を促す。尚、クリーン系動作に関しては正しいフォームの習得を目標とする。ベンチプレス・スクワット・デッドリフトに関しては最大挙上値の向上方法を学ぶ。	2前	35					○	○	○						
○	○	○	トレーニング実習Ⅳ	第三者に対するカウンセリング、トレーニングプログラムの提供までができるようになることを目標とする。実体験することで指導者としての高い自覚を促す。またTRXサスペンショントレーナーを用いたファンクショナルトレーニング法を学ぶ。	2後	35					○	○	○						
○	○	○	判断推理	文章・記号・図形等による推理力・判断力を中心とした判断推理の領域及び平面・立体図形・軌跡等による視覚能力・想像力を中心とした空間把握の領域の基本を養うことを目標とする。種々の演習問題を多角的に学ぶ。	2前	80				○	○	○							
○	○	○	判断推理演習	文章・記号・図形等による推理力・判断力を中心とした判断推理の領域及び平面・立体図形・軌跡等による視覚能力・想像力を中心とした空間把握の領域の基本を養うことを目標とする。国家公務員試験・地方公務員試験の出題傾向を考慮し、種々の演習問題を多角的に学ぶ。	2前	40				○	○	○							
○	○	○	文章研究Ⅰ	日常生活のなかで養われた教養および知識をもとに、現代文等の文章に対する読解力・内容把握力・構成力および鑑賞力等の基礎を理解することを目指す。	2前	40				○	○	○							
合計					88科目	3655単位時間(161単位)													

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件：成績評価において合格した科目の授業時間数の合計が1,720単位時間以上になること。	1 学年の学期区分	2期
履修方法：コース選択により履修科目が決定する。	1 学期の授業期間	20週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。